

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着したグループホームを目指し、理念を意識してケアに取り組んでいる。職員間でも意見交換しながら日々の実践につなげている	事業所独自の理念が作成されている。ユニットごとの二ヶ月に1回の職場会議や朝のミーティング時に「お年よりの立場に立って」実践しているかどうか振り返りの機会を設けている。来訪者にも分かり易いようにホームの入り口やユニットの壁面に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のお年寄りの会「手のひらの会」に加えていただいたり、演芸大会、祭等に参加させていただいている。地元の保育園、小中学校とも交流をしている	民生委員などが主体となって開催している月一回の、地区のお年寄りが集まるサロン「手のひらの会」に参加している。地元のお祭りや演芸大会にも入居者と職員が出かけている。中学生や高校生の福祉体験の場として、またボランティアの来訪も多数あり交流が活発に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解をふかめていただく為に、地域の勉強会等へ職員を講師として派遣している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行なうことで、地域の議員の方や民生委員の方との繋がりができ、地域行事への参加がしやすくなったように感じている	入居者代表、入居者家族、地域の町会議員、民生委員、町担当課職員、地域包括支援センターの職員、ホーム職員が参加し開催されている。今年度は諸般の事情で2回の開催にとどまっている。頂いた意見・要望などは運営に活かしている。家族の集まりも同日に開かれていますので大勢の家族の参加を得る時もある。議事録は全家族に配布している。	運営推進会議については参加者にもお願いし、徐々に回数を増やしていかなれるよう望みたい。また、議題によっては委員の他に議題に関係する方々にも出席を依頼し、更に中味の濃い双方向の会議となることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、現状報告を行い、グループホームに対する理解をしていただくようはたらきかけている	ホームの新聞を届けたり、町役場へ行く際には必ず担当部署に立ち寄り報告したり相談している。町内の事業所会議やケアマネージャー会議に出席している。町や地区からの依頼があれば講習会や勉強会に職員を講師として派遣している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠についての弊害は理解している。見守り方法を徹底し、一人ひとりの状況把握を行って、日中は鍵をかけずに過ごすことを心がけている	現状では必要とすることは全くない。玄関も施錠はされておらず、テラスへの出入りは自由である。外出傾向の方にはホームの物品の買出しに職員と同行していただくなど外へ出る機会を多くしている。離設については近所の方への協力依頼を特にしていないが、犬の散歩や普段の挨拶などで顔なじみになっているのでごく普通に連絡をいただける関係となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職場会議で虐待について学習し、虐待が見過ごされることがないよう注意を払っている		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が学習会に参加しているが、現在利用している方がいないので、今後必要に応じて社会福祉協議会等に相談しながら活用していきたいと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は、十分に話し合いの時間を持ち、理解を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、職員から声をかけ、話がしやすいように努めている。契約の際、町や国保連の相談窓口についても説明するようにしている	入居者のほぼ半数が日常の意思表示をすることができるので耳を傾けるようにしている。ご意見箱はあるが殆ど利用はなく、利用料の支払いを原則持参としていることもあり、家族がホームへ来た時に職員から働きかけ直接口頭で聞く場合が多い。運営推進会議と同日に家族の集まる機会を設けているので、会議後、家族同士で話し込む光景も見られる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議や毎朝の申し送りの際の意見や提案を参考にして、日々の業務を行うようにしている	二ヶ月に1回の職場会議や毎日の申し送りで意見交換している。法人本部が離れているため理事長のホームへの訪問は年2回ほどではあるが、管理者は法人理事との面談があり、本部での会議などでも職員の意見や提案を直接伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの希望を考慮しながら、それぞれがやりがいをもって働き続けることができるよう、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が、法人内外の研修を受けることができるよう配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価事業に参加し、他のグループホームでの工夫を参考にしながら、サービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家庭を訪問し、今までの生活ぶりや様子についてよく話を聴き、参考にしている。又、入居前に通所していただき、慣れた頃入居という方法も取り入れている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記方法により、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネージャーとよく相談しながら対応するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの人生でやしなってきた生活の知恵を、その時々で教えてもらっている。年中行事については、細かいことまでよく教えていただいている。干し柿づくりも、教えていただきながら完成させた		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を、手紙やコスモス便りでお知らせしている。来訪時には、ご本人とご家族の潤滑油になるよう心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい友人や、親戚の方と行き来出来るよう支援している	入居者の昔の職場の同僚や親戚の方がホーム周辺の商店街に来たからと立ち寄ることが多い。家族等がお盆やお正月、お墓参りに迎えにきて帰省し近所の方とふれ合うこともある。希望があればホームの新聞を家族以外の方にも送付し、関わりを継続するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く支え合って生活できるよう、職員が調整役となって支援している。一人ひとりの個性や感情の変化などを気にかけてながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も連絡いただいたり、訪問して下さる家族もあり、相談に応じることもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉、言葉に出来ない思いを、日々の行動や表情から汲み取る努力をしている。集団の中では話すことが出来ない方とは、個別で散歩し、気持ちの把握に努めている	集団ではなかなか言い出せないことを、日常の散歩や買い物時に入居者1人あるいは2人に対し職員が1人で同行することにより気軽に話していただけるよう配慮している。職員はゆっくり、わかり易く話しかけ、待つ姿勢を大切にしている。併設している認知症対応型通所介護の利用を経て入居に到る場合もあるが、直接利用の場合も本人や家族の希望・意向を大切に入居前から十分検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、いままでのサービス提供事業所からも情報を頂くなどにより、いままでの生活の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の使用等により、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向をふまえて作成し、作成後、家族に説明し了解を頂くようにしている。日頃介護にあたっている職員の意見やアイデアも取り入れるようにしている	本人・家族の意見や要望を聞き計画作成担当者が作成し全職員の意見を求めている。入居者の担当制はとっていないが、逆に職員はユニットの全入居者の情報を共有し支援に役立てている。計画については毎月評価をし、必要があれば見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、業務日誌、連絡帳等を活用し、情報の共有を図り実践にいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所利用などと組み合わせながら取り組んでいる		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方と連携し、地区サロンへ参加している。区のお祭の際は、獅子舞が立ち寄って舞いを披露してくださったり、演芸ボランティアの方に来ていただいて、楽しい時間を過ごす機会も持っている			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医師や協力病院の医師による適切な医療の提供ができています	かかりつけ医を継続している。法人のクリニックの医師2名により、各医師ほぼ隔週毎に1回ずつの往診をしているので何かあれば入居者は相談ができる。専門医への通院介助にも職員が当たっている。受診結果については家族等へ電話にて連絡している。各ユニットには常勤の看護師を1名ずつ配置しており、情報や気づき等をかかりつけ医や協力医療機関につなげている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を中心にして、病状の把握を行い、受診や看護につなげている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も時々見舞い、本人の様子を見たり、病院関係者と治療の見通しや退院後の生活についてなどの意見交換を行っている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応同意書を交わしている。状態の変化にあわせ、その都度相談しながら支援している	法人としてはホームの重度化に対しての方針を入居時に十分説明をしている。実際には食べられなくなるまでホームで介護を受け入院することが多く、最期を看取することは稀である。入居中に徴候もなく夜間に旅立たれた方がいたが他の入居者への影響は殆どなかった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年度全職員を対象にした救命講習を実施した。今年度は出来なかったので22年度の早い段階に実施したいと考えている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している	年2回、春、秋に入居者も参加し避難訓練を実施している。夜間想定訓練も行っている。同じ法人が運営する直ぐ近くにあるデイサービスの訓練に職員が参加することもあり、数百メートル離れた小規模多機能型事業所との連携も取れ心強い。自動火災報知器も備え付けられ、スプリンクラーの設置も予定されている。万が一に備え、保存食等日々多めに準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄の介助時にプライバシーを傷つけないよう配慮するようにしている。言葉かけにも充分注意して対応するよう、ミーティングの折に注意を促している	理念に「私達は入居者とその家族の尊厳や願いを最大限尊重し……」と謳われており、職員の接し方も年長者への敬意を払ったものであった。入居者の紹介にも本人が得意としていたこと、誇りとしていることを巧みに取り入れており本人の笑顔が印象的であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々利用者の方の思いを大切にしている。言動、表情から思いを汲み取り把握できるように努めている。ゆっくりわかりやすい声かけ、ゆっくり返事を待つということを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れはあるが、体調や気持ちを考慮し、それぞれのペースで生活して頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着がえは、本人の好みや意向に添って行うようにしている。髪などの乱れは、さりげなくブラシを渡して整えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、味見、お茶いれなど、出来る範囲で仕事を分担している。誕生日には好物を献立に取り入れ、楽しい雰囲気の中なかで食べている	職員が冷蔵庫にあるものを基本に、入居者の要望に沿い、足りないものは入居者とともに買出しに行き調達している。入居者で可能な方は下ごしらえなどのお手伝いをしている。誕生日や行事の特別メニューもある。ペースト状にしたり、トロミをつけたり、塩分を控えめにしたりと各入居者への対応をしている。入居者同士が自分の関わった料理をお互いに勧めあう光景は微笑ましかった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂食状態や訴えを考慮し、食事量、形態等の工夫をしている。水分量にも気をつけ、ムセのある方にはとろみをつけて摂取量を確保するようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後、それぞれの方の口腔ケアを行うことを習慣にしている。今後、口腔ケアについて学習していきたいと考えている		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、時間を見計らってトイレ誘導している。又、職員が、一人ひとりのサインを見逃さず、さりげなく支援をしている	自立の方が約半数ほどいるが、排便についてはチェックをしパターンを把握している。パットを使用する方もいるが、交換については本人の思いにも配慮し、なるべく自分でできるように支援している。トイレも車椅子対応の広いスペースであった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事、ヨーグルトなどの乳製品をおやつに出すなどの工夫をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に添い、ゆっくり入浴できるよう支援している。入浴を拒む方に対しては慎重に対応し、時間や声かけのタイミングなどを職員全員で工夫している	夏は2日に一回、冬は2～3日に一回のペースで入浴している。時間帯は午前、午後1時間ほど設定しているが、希望があれば夕食後の対応もしている。シャワー浴や清拭等に切り替えることもある。入居者によっては二人介助で応じることもある。家族と日帰りや一泊で温泉に出向く方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムがあるが、体調や状況に応じてゆっくり休息をとって頂いている。希望される方には湯たんぽを使用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方が変更になった時は、状態の変化を見逃さないよう、細かく記録し、看護師に伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したりたたんだり、そうじ、裁縫など、得意なことをやりながら、自然に役割分担ができつつある。手芸や簡単なゲームなども用意し、気分転換に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩に行く方、時々洋服や日用品の買物に出掛ける方など個人差はあるが、できるだけ希望に添えるようにしている。家族の協力も得ながら外出の機会を作っている	ホームで飼っている犬と一緒に散歩したり、食料品の買出しに職員と共に出かけている。地区で行われる作品展「ふれあい広場」に入居者が作ったパッチワークを出品し見に行ったり、お祭りなどにも参加している。外出行事も多彩でコスモス見物や紅葉狩りなど、車椅子対応車で出かけている。	

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得ながら、希望に合わせて行っている。施設で管理している方も、希望する物があれば、その都度使うことが出来るよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、気軽に電話で話をしたり、手紙のやり取りができることで、穏やかに過ごせることが出来ている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心がけている。季節の草花を植えたり、生けたりしている。又、手芸の好きな利用者の方達が製作した作品を展示し、潤いのある生活空間を心がけている	居間や食堂、畳コーナー、廊下など共有スペースは広く、天井も高くゆったりとしている。食卓や椅子の他にテレビやカラオケセットが配置され、ソファや長いすなども随所に置かれていた。入居者の手による油絵や折り紙、俳句の短冊などが壁に飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを置き、暖かい日には、日向ぼっこをして寛げるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや小物などを持ってきて頂いている。又、家族の写真、町のふれあい広場に出展した手芸品などを、思い思い飾っている	居室入り口には氏名の書かれた小さな表示と目印となる手芸品が飾られていた。居室内には家から持ち込んだお厨子や使い慣れた鏡台、タンス等が持ち込まれていた。家族の写真や家族の描いたイラスト風の風景画なども飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ本人の状態にあわせて居室の位置を決めてあり、安全に自立した生活を続けることが出来るよう、日々検討をしている		